

TOP > [レクチャー](#) > [山下塾第2弾](#) 「現代危機管理考」 > 第6回講座 東日本大震災における危機管理（5）事故調以外の危機管理上の論点（論点5～8）

山下塾 第2弾

山下 輝男

第6回講座 東日本大震災における危機管理（5） 事故調以外の危機管理上の論点（論点5～8）

第6回講座説明事項

事故調中間報告以外の危機管理上の論点 1～8 の内次事項について説明

- 5 議事録未作成
- 6 危機管理は人か組織か
- 7 民心の安定等
- 8 石巻市大川小学校の避難対応

1

第6回講座の内容はスライドの通りです。5項及び8項は年始めに報道された事項ですので、記憶に新しい所かと思いますが・・・

危機管理上の論点(5-1)
福島原発対策本部議事録の未作成

- 1 NHK 報道(平成24年1月22日)で判明
 - ①原子力災害対策本部の設置:3月11日1903
事務局:経産省保安院(ERC)
会議開催21回
議事録はなく、1頁の議事次第のみ
公文書管理法:重要な会議の議事録を作成
 - ②官房長官(23日):基本的に実施すべき事項
政府として調査、議事内容に関する情報を収集して作成するとの方針

2

議事録未作成問題発覚の経緯はスライドの通りです。NHK報道で議事概要が放映されていましたが、1頁のみの式次第を書いただけの物でした。あれを議事概要などとは恥ずかしいですね。

危機管理上の論点(5-1(続)) 福島原発対策本部等議事録等の未作成

震災議事録作成有無調査(27日Y紙夕刊)

連番	会議名	議事概要	議事録
1	原子力災害対策本部(首相)	×	×
2	政府東京電力統合対策室(経産相、原発相)	△	×
3	原発事故経済被害対応チーム(担当閣僚)	○	×
4	緊急災害対策本部(首相)	×	×
5	被災者生活支援チーム(防災相)	×	×
6	官邸緊急参集チーム(内閣危機管理監)	○	×
7	各府省連絡会議(官房長官)	○	×
8	経済情勢に関する検討会合(首相)	○	×
9	電力需給に関する検討会合(官房長官)	△	×
10	電力改革及び東京電力に関する閣僚会合(官房長官)	○	×

議事録:会議などの発言内容が詳述
議事概要:議事内容や検討過程などの要点をまとめたもの
公文書管理法:年金記録問題を契機に法制化、2011年4月1日施行
来月中に作成指示(27日夜副総理)

調査結果をスライドに示しています。驚く限りです。

危機管理上の論点(5-2) 福島原発対策本部議事録の未作成

2 危機管理上の論点

- ①事実の隠蔽?とは思いたくないが・・・!
- ②リーダーたる者、歴史の批判に耐えるべし。
- ③事実検証のために最も重要な文書(財産)、
後世に対する責任、国民に対する裏切り
- ④官房副長官:昨年4月に、作成指示にも関わらず
- ⑤多忙(保安院)だったとの謂いは、言い訳に過ぎぬ
- ⑥組織権限の不明確、俄組織の乱立、官僚の活用なし
- ⑦危機管理以前の問題、杜撰という他なし

危機管理上の論点は何でしょう。記録することは後世に対する責任であると思います。過去の教訓を活かすことは、危機管理上重要です。そういう意味においても記録は残すべきであり、それを検証して将来の危険・危機への備えを講じるべきです。

多忙だからというのは言い訳にもなりません。記録装置の発達した時代ならば如何様にも出来るでしょう。

危機管理上の論点(6)

5 危機管理は人か組織か?

- リーダーの具備すべき識能
危機管理に係る(本部)訓練実施の要
- システム構築、組織

この命題は、古くて新しい問題であるかと思います。リーダーの養成には時間もかかるのでしょうか。危機を防止し得るシステムを構築し、危機対処の為の組織を創設することも重要な対策です。

我が国はこの両面において欠陥を曝け出したのではないのでしょうか?リー台に資質なく、システムや組織も十分に機能しないとすれば最早お手上げですね。

危機管理上の論点(7-1)

- 民心の安定
 - 難しい問題を解り易く説明納得させる能力
 - ☆専門家の意見は踏まえても自らの決断
(責任逃れと受け取られる愚は回避すべき)
 - ☆情報小出しの愚
 - ☆数値の意味を如何に伝えるべきか
 - 国民に安心感を与える指導者像は
責任感、自信、不屈心、顔貌に出る
- 長期・連続作戦への対応
 - 当面作戦と次期作戦の並走
当面の処置をしつつ、
次の段階の作戦を検討
 - トップを如何に休ませるか

今回の福島第一原発事故の様な極めてセンシティブな事故の場合、説明も非常に難しいでしょうが、その難しさから逃れてはならないでしょう。

我が国が直面している事態をしっかりと説明し、安心感というか、彼が何とかしてくれるだろうというような信頼感を与えるようなトップリーダーの出現が望まれます。

危機管理上の論点(7-2)

- 機能麻痺した自治体への対応: 今後の課題
- 国難(ピンチ)をチャンスに変える方策の案出
- 次なる危機に備えて真摯な検証を!

今次東日本大震災で気になったことの一つが、本来市民の安全を確保すべき市町村が機能麻痺したことです。このような事態を想定していないのでしょうか、このような場合の対処を考えるべきでしょう。

自治体としての対策もあれば、国家としての対策もあるのではないのでしょうか。必要なデータが喪失したという事例も数多くありましたが、今後の課題でしょう。

危機管理上の論点(8-1)

東日本大震災:石巻市大川小の避難対応

1 状況概要

- ①1446地震直後:全児童校庭に集合
- ②(避難情報あるも)校庭で40分ほど待機
(この間教職員間で議論)
- ③1530頃(東側の)松原を津波が超えた」との広報車の放送を聞き、学校西側の高台に向かう。
(生存男性教諭:裏山に向かわず、如何なる経緯で西へ移動したか不明)
- ⑤1546分頃津波にのまれ、児童74人と教職員10名が死亡・行方不明

1月22日に石巻教育委員会が大川小学校の保護者に対して、多数の大川小学校の児童等が津波の犠牲になった事案についての

説明会が行われました。
危機管理上の重要な論点がありますので説明します。状況はスライドの通りです。

危機管理上の論点(8-2)
東日本大震災:石巻市大川町の避難対応

2 危機管理上の論点

①市教委の説明(平成24年1月22日保護者者説明会)

- ・避難マニュアルに明確な避難場所の記入なし
- ・教職員の危機意識不足
- ・過去の経験から津波が来ないとの思い込み
- ・津波情報を得るも、適切な避難行動出来ず

②リーダーの責任・判断ミス、決断力

(どう対応するかの議論ばかりで結論出ず、裏山は決して子供が登れない山ではない)

③市教委の前年指導(二次避難場所設定=高台)に従わず

9

市教委の説明よりは一般的過ぎます。最大の問題は危機に直面した時に、どう対応するか議論ばかりして時期を失ってしまったのではないかと云うことなのです。
日本人に最も欠けている資質なのかもしれませんし、リーダーの教育をしてこなかった付けかもしれません。

次回配信

第7回講座の配信

1週間後

テーマ: 大震災以外の事例における危機管理上の論点

乞うご期待!

10

キーワード▶ 危機管理・東日本大震災・3.11

いいね! 0

INDEXへ戻る

次の記事 [第7回講座 大震災以外の危機管理上の論点\(1\) 最近の動向、事例研究1~6](#)

前の記事 [第5回講座 東日本大震災における危機管理\(4\) 事故調以外の危機管理上の論点\(論点 ページの先頭へ](#)

関連サイト

[防衛省](#)

[統合幕僚監部](#)

[陸上自衛隊](#)

[海上自衛隊](#)

[航空自衛隊](#)